

1 単元名 ボールをつないで楽しもう

2 単元の目標

- ボールを捕球したり、ボールを打ちやすい場所に身体を移動させて用具を使ってボールを返球したりして、的当てゲームやラリーゲームをすることができる。 【知識及び技能】
- ラリーを続けるために、ボールを打ち返すための方法や、自分と相手がボールを返球しやすい場所について考えるとともに、考えたことを友達に伝えたり、友達からの助言を自分の動きに生かしたりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- 練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守って友達と仲良く運動したり、友達の考えを認めたりするなど、友達と協力して活動することができる。 【学びに向かう力・人間性等】

3 基盤 省略します。

4 単元計画

時間	目標	主な活動
1	○ボールに慣れる。 ○大きなボールをワンバウンドかツーバウンドでキャッチすることができる。	・基本的なルールの確認（ワンバウンドかツーバウンドで取る） ・ドッジボールでのボールキャッチの練習
2	○小さなボールをワンバウンドかツーバウンドでキャッチすることができる。	・ドッジボールでのボールキャッチの練習 ・スポンジボールでのボールキャッチの練習
3	○ボールの場所まで移動してキャッチすることができる。	・移動してキャッチの練習（右、左、前）
4	○ボールを掌に当てる感覚をつかむ。	・新聞紙ボール、スポンジボールを掌に当てる練習 ・ボールを利き手で打ち、前に飛ばす練習
5	○ペアが取りやすい場所にボールをとばすことができる。 ○ボールの場所まで移動してキャッチすることができる。	・ラケットでボールを打ち、前に飛ばす練習 ・ラケットでボールを打ち、ペアに返す練習
6	○ペアが取りやすい場所にボールをとばすことができる。 ○飛んできたボールをワンバウンドかツーバウンドで打ち返すことができる。	・飛んできたボールをワンバウンドかツーバウンドで打ち返す練習（キャッチしてからでもOK）
7	○ラリーを2往復続ける。	・簡単なラリーゲーム

5. 授業の実際

【視点②】 なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求

本学年は、テニピンを経験することも目にすることも初めてであり、飛んできたボールの場所に移動したりボールを打ち返したりすることに困難さを示す児童もいると予想することができた。そのため、一度ボールをキャッチしてから打ち返すようにし、簡単なラリーゲームをすることを単元のゴールとして設定した。また、1年生の頃にボールを打ったり動いてキャッチしたりする経験をあまり積んできていないため、テニピンの基本的な動きである「打ちやすい場所に移動」「打つ（ラケットに当てる）」に焦点を当て、実践を行った。

○打ちやすい場所に移動するための手立て

- ・ボールをワンバウンドかツーバウンドで打つためには、ボールのはね方に慣れる必要があるため、大きなボールをワンバウンドかツーバウンドでキャッチする練習から始め、ボールとの距離の取り方を身につけやすいようにする。
- ・ボールの落下位置（右、左、前）にケンステップを設置し、移動の目安となる場所を視覚的にわかるようにし、移動してボールをキャッチする感覚をつかむことができるようにする。



○ボールを打つ（当てる）ための手立て

- ・ボールを掌に当てる感覚をつかむために、「その場で掌に何回当てることができるか」という活動を取り入れる。全員が一斉に活動できるように、新聞紙ボールを作成し、練習を行う。
- ・ボールを前に飛ばすイメージを持つために、カラーコーンを設置しカラーコーンをねらった的当てゲームを行う。
- ・ラケットにボールを当てやすくしたり山なりのボールを打ったりするために、ラケットは下から上に動かすようにし、ボールは自分の身体の前で手から離すように練習する。

6. 成果と課題

◎成果

- ・テニピンのボールよりも大きいドッジボールのキャッチから練習を始めたことで、ワンバウンドかツーバウンドでキャッチするというイメージや感覚をつかみやすくなっていた。また、ボールのはね方にも慣れ、ボールとの距離の取り方が上手になった。
- ・ケンステップを落下位置に設置したことで、ボールの落下位置に合わせて移動する感覚をつかむことができた。練習前は、ボールが落下してから動き出す児童も見られたが、ケンステップ使用後は、ボールの落下位置を予想して動き出すことができる児童が増えた。
- ・新聞紙ボールを掌に当てる練習をしたことで、ラケットを装着した際にボールを打つことができる児童が多かった。また、ラケットの端ではなく中心でボールを打つことができている児童も多数いた。



△課題

- ・2年生は、週3時間体育の時間が設定されているが、全て合同体育のため、1グループ8～9人の8グループで活動を行った。ラケットが20個、ボールが12個しかないため、1グループにラケットが2個、ボールが1個しか用意することができず、待ち時間が長かった。用具の充実具合にもよると思うが、合同体育では、一人一人の運動量の確保が困難であった。
- ・自分でボールを出して自分でボールを打つということが難しかった。「ボールは上から落とすだけ、ラケットは下から上に」と指導したことで、ラケットにボールを当てることのできる児童は増えたが、斜めや真上に飛んでいく児童も見られた。自分でボールを出して打つ練習も、キャッチの練習のようにスモールステップで丁寧に行う必要があるように感じた。
- ・ラリーゲームでは、協力して、ラリーを長く続けることを目標にしていたが、「自分が打ちたい」「ボールに当たって嬉しい」という思いが強く、同じ児童ばかりがボールを打つ姿が見られた。そこで、ペアで順番にうつこと、2回続けて同じ人が打たないことを確認すると、ラリーが続かなくなり、つまらなそうにする児童が増えた。そのため、ラリーゲームの時間を2時間に設定し、ラリーを長く続ける楽しさやボールを打つ楽しさを味わう時間を十分に確保する必要がある。

